

第 373 回研究報告会 (2024 年 12 月 20 日)

「明治初期の京都の様相—高野友治先生の見解の検討—」

遠藤 正彦 (天理教校)

本報告では、天理教伝道史の碩学である高野友治先生の見解を足がかりに、明治初期の京都の様相を提示しようとした。当時の京都は官憲の干渉が少ないとされているが、高野先生は、その要因として府政に影響力をもつ元会津藩士、東五一あづまごいちの人脈、及び京都における「心学」の受容を挙げている。今回は、東五一の略歴を提示するとともに、当時の京都府知事（横村正直、北垣国道）の「心学」、「宗教」に対する理解が伺える資料を提示した。東五一が明治 20 年前後、知事に非常に近い立場にいたことは確認できたが、斯道会についての理解や具体的な提言を見いだすことは出来なかった。また、両知事が「心学」について理解を示していたことは垣間見えるが、お道の教えや斯道会をどのような枠組みでとらえていたのかという点までは踏み込めなかった。質疑応答では、多方面からの一次史料の必要性を指摘されたが、それらへのアプローチを通して当時の様相を明確化することにつなげていきたい。

2024 年度公開教学講座のご案内

— 信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ (10) —

2024 年度の公開教学講座は、以下の日程でオンライン配信しています。

第 1 回 6 月 井上昭洋 所長 172 話 「前生のさんげ」

第 2 回 7 月 澤井真 研究員 114 話 「よう苦労して来た」

第 3 回 9 月 岡田正彦 研究員 135 話 「皆丸い心で」

第 4 回 10 月 八木三郎 研究員 36 話 「定めた心」

第 5 回 11 月 森洋明 研究員 85 話 「子供には重荷」

第 6 回 1 月 中西光一 研究員 144 話 「天に届く理」

2024 年度おやさと研究所 特別講座「教学と現代」

『天理教台湾伝道史』刊行記念 台湾伝道を振り返る

天理教の台湾伝道は 1896 年 (明治 29)、古谷マツ姉の渡台から始まり、翌年には「おさしづ」を仰いで、山名分教会 (当時) により海外初の教会である台中教会が設置されました。その後 1934 年 (昭和 9) には台北市内に台湾伝道庁が設置され、昨年 2024 年 (令和 6) 11 月には創立 90 周年記念祭を行いました。

おやさと研究所ではこの度、『天理教台湾伝道史』の刊行を記念して、『天理教台湾伝道史』刊行記念台湾伝道を振り返る」を開催します。台湾伝道に関わる皆様、また広く海外伝道に関心をお持ちの皆様にはご参集を頂けましたら幸いです。※事前申し込みは不要です。直接会場にお越しください。

日時：2025 年 3 月 27 日 (木) 14:00~16:20

会場：天理大学研究棟 3 階第一会議室

プログラム

14:00-14:05	開催挨拶	井上昭洋 所長
14:05-14:15	①伝道史の編集の経緯	金子昭 研究員
14:15-14:30	②戦前の台湾伝道史	山西弘朗 香川大学
14:30-14:45	③戦後の台湾伝道史	高佳芳 元海外部員
14:45-15:00	④天理教婦人会の伝道	堀内みどり 主任
15:00-15:15	⑤台湾伝道史の一齣	中西牛郎と高見庄蔵 佐藤浩司 元研究員
15:15-15:25	休憩 (10 分)	
15:25-16:10	質疑応答	全員
16:10-16:20	総括と挨拶	三濱善朗 本部員
16:20	閉会	

[共催] 天理総合人間学研究室、天理ジェンダー・女性学研究室、伝道史料室 (第 9 回伝道フォーラム)